

推薦図書

『みえるとか みえないとか』
さく：ヨシタケシンスケ／そうだん：伊藤亜紗
アリス館
推薦教員
人文学部共通領域部
堤 孝晃 准教授

今回私が紹介するのは、『みえるとか みえないとか』という、かわいい絵本だ。『りんごかもしれない』（ブロンズ新社 2013）などで知られる絵本作家のヨシタケシンスケが、美学者の伊藤亜紗に相談しながらできあがったものである。

この絵本の主人公は、地球人宇宙飛行士の「ぼく」。ぼくは、いろいろな星の調査を仕事にして、ロケットで旅をしている。ぼくがある星に降り立つと、後ろ向きにも目がある、三ツ目の宇宙人たちと出会う。そのひとたちは、突然やってきた宇宙人であるぼくを攻撃したりすることなく、とてもやさしくしてくれるのである。三ツ目のひとたちは、二つしか目がないぼくを見て言う。

「え?! キミ、うしろがみえないの?」
「えー?! ふべんじゃない? かわいそう!」
「このひとは じぶんのせなかが みられないんだね」
「かわいそうだから せなかのはなしは しないであげようね」

そして、ただ歩いているだけのぼくを見て、「すごーい! ちゃんと あるいてる!」と驚き、「みんな よけてあげてー!」と道をゆずるように周囲に声をかけてくれたりもする。そんなふうによさしくされて、普通にしているだけのぼくは、なんだか「ヘンなきもち」になってしまう。

この絵本には、ほかにも身体の作りが違ういろいろな星の、かわいくておもしろい宇宙人たちが登場する。みんな身体のがちがって、それぞれの社会にちがう「あたりまえ」がある。だからひとびとは、それぞれがぜんぜんちがう世界の感じかたをしていて、その感じかたのほんとうのところは、そのひとにしかわからない。それでも、ぜんぜんちがうぼくたちが一緒にいるためにはどうすればいいだろう。本書は、どの星でも「めずらしいからだ」になってしまうぼくが、「みえるとかみえないとか」をはじめとする、さまざまながいを考えていくお話だ。どんな答えが用意されているかは、あなたが実際に読んで確かめてほしい。

本書は、子どもでも楽しく読めるたのしい絵本だ。かわいくておもしろい宇宙人たちを眺めるだけでも、この絵本を読む価値がある。でもこれは、大人も読むべき本だ。特に、いつも思いやりをもってひとと接しようとしているやさしい大人にこそ、読んでみてほしい。きっとほっこりしながらワクワクして、でもどこかムズムズしながら、なんか「ヘンなきもち」になるはずである。

もしあなたが「ヘンなきもち」になったとすれば、ヨシタケシンスケの相談相手である伊藤亜紗の、『目の見えないひとは世界をどう見ているのか』（光文社 2015）をあわせて読んでみることをおすすめする。さらにもし、あなたがもっといろいろ考えてみたいと思ったら、ぜひ社会学を学んでみてほしい。私は、今年度の社会学概論の授業で本書を取り上げた。この絵本は、社会学のやさしい入門書であると同時に、いまま社会学者（だけじゃないけど……）が考え続けている難問を私たちに突きつける挑戦の書でもあると思う。社会は複雑だから面白い。この絵本を入口に、社会学のことも、複雑だけど面白いと思ってもらいたい。



【書影】ヨシタケシンスケ・伊藤亜紗，2018，『みえるとか みえないとか』アリス館。
 ＊こちらの絵本は、十条台図書館に所蔵されています。興味のある方は
 十条台図書館で借りてみてください!!



【書影】伊藤亜紗，2015，『目の見えない人は世界をどう見ているのか』光文社.

図書館よりご案内

＊学生より、『十条台キャンパス図書館に所蔵されている図書を借りることができますか?』と問い合わせがありました。借りることは、可能です。両キャンパス図書館でのルールで貸借を行っております。送付に時間がかかるので、その点はご了承くださいませ早めの申し込みをお願い致します。詳しくは、図書館窓口までお問い合わせ下さい。